

第4節 連携について

1 連携の基本的な考え方

キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわる教育であり、キャリア形成には、一人一人の成長・発達過程における様々な経験や人との触れ合いなどが総合的にかかわってくる。そのため、キャリア教育を推進するに当たっては、学校が児童の生活時間の多くを占める家庭と積極的にかかわりを持ち、ともに連携・協力をして進めることが重要である。また、キャリア教育を十分に展開するためには、家庭との連携のほか、地域や関係機関等との連携も必要不可欠である。学校外の教育資源を有効に活用し、子どもたちに望ましい勤労観、職業観をはぐくみ、将来に向けての主体的な進路の選択や決定を指導したり、支援したりできるよう共通理解を図ることが必要である。

さらには、キャリアを形成していく方法等について専門的な知識や情報をもっている保護者、社会人、職業人など外部講師から直接学ぶ機会をもつことで、それぞれの進路を探索・選択の重要な基盤形成の時期に、社会人として必要な自立性や社会性がはぐくまれ、産業構造や雇用形態、進路をめぐる環境の変化などについての理解が深まる。

このように、学校と家庭、地域がパートナーシップを発揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、一体となった取組を進めることが今後ますます重要になってくるのである。

また、教育基本法第13条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」では、次のように定めている。

「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする」

このような教育基本法及び学校教育法等の改正を踏まえ、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月）においては、学習指導要領改訂の方向性が示され、その中で家庭や地域との連携・協力について、以下のように述べており、連携の重要性が示されている。

10. 家庭や地域との連携・協力の推進と企業や大学等に求めるもの（抜粋）

(1) 家庭や地域との連携・協力の推進

- これまで、家庭や地域の教育力の低下を前提に、学校教育がそれに対応するかどうかについて述べてきたが、本来、家庭や地域で果たすべき役割のすべてを学校が補完することはできず、仮にできたとしても、子どもの心の満足は得られないなど、家庭の教育力は学校で代替できる性質のものではないと考えられる。
- このため、特に、豊かな心や健やかな体の育成については、家庭が第一義的な責任をもつものであり、その自覚が強く求められる。「早寝早起き朝ごはん」といった取組を通して、家庭教育の充実を求めていく必要がある。

(中 略)

- さらに、現在、学校教育は、勤労観・職業観の育成や道徳教育、環境教育、伝統や文化に関する教育、体験活動の充実など多岐にわたる課題に直面している。

このため、まず、時代の変化等により共通に指導する意義が乏しくなった内容を見直したり、教職員定数といった教育条件の有効な活用を考慮する必要があるが、それとともに、

すべてを学校で抱え込むのではなく、学校の教育活動と家庭や地域、企業、NPO、青少年団体などによる学校外の教育活動の役割を明確にした上で、例えば、職場体験活動の実施などを連携して行う必要がある。

(中 略)

- なお、将来的な課題として、子どもに対する学習や体験活動の提供についての教育委員会等の責任を明確化することや、地域、企業、大学などの高等教育機関、NPO、青少年団体などによる学習や体験活動の提供といった取組を奨励する仕組みの構築などについて検討することが必要である。

(2) 企業や大学等に求めるもの

- 4. (1) で指摘したとおり、非正規雇用が増大するといった雇用環境の変化は、子どもたちの学習意欲などにも影響を及ぼしている。企業等にあっては、子どもたちが将来を見通して希望をもって学習に取り組むことができるよう、人材を育てることを重視した雇用環境の整備を強く求めたい。

(中 略)

- (1) で示した職場体験活動などの学校外での学習や体験活動の実施には、企業等の協力が欠かせない。他方で、大人が家庭や地域で子どもたちの教育や安全の確保に十分役割を果たせるようにするためには、大人の働き方の問題がかかわっており、この点についても企業等の協力が必要である。また、企業等の社会的責任が重視される中で、学校教育活動への協力・参加に企業等がより組織的に取組むことやこれらの取組が円滑に学校に受け入れられるための教育委員会等の仕組みの充実も期待したい。

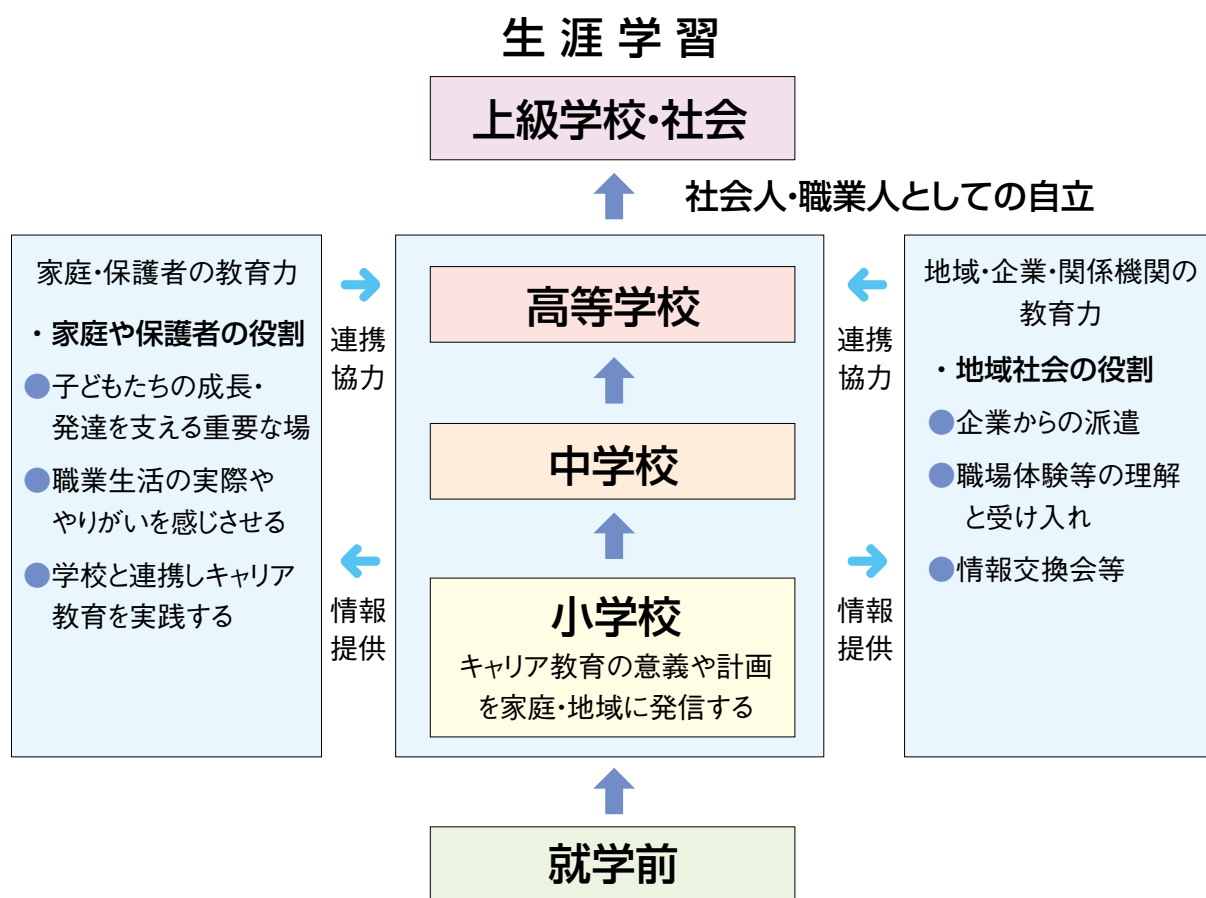
なお、男女共同参画社会において、子育てと職業が両立できるようにするための行政や企業等の取組や環境づくりが求められる。

職場体験等のキャリア教育にかかわる体験活動の実施については、受入事業所等を十分確保できなかつたり、実施校が増えてきたため受入事業所等の確保をめぐる競合等が課題となっている。現状では 受入事業所等や講師等の開拓をそれぞれの学校で行っている場合が多いが、体験活動をより円滑に実施し普及していくため、また、息の長い取組として定着させることができるよう、学校と関係機関が一体となって取り組むことが大切である。このため経済団体やPTA、地域の自治会等の協力を得て、体験活動推進のための協議会を組織するなど、地域のシステムづくりに努める必要がある。また、体験活動の前後はもちろんのこと、入学時期から家庭・地域と学校とが連携を図っていくことが重要である。

教育については、学校のみならず家庭、地域に対してもその役割と責任を明確することが求められ、その上で、三者の連携・協力が求められる。学校が「地域社会の教育力」を活用し、かつそれを形成していくとともに、地域が学校を通して教育に参画する新たな方法を探索していくために、学校と家庭、地域との連携・協力、いわゆる「ヨコの連携協力」が重要となる。すなわち子どもたちの発達の段階に応じた組織的、系統的な学習の連続である「タテの接続」とともに、もう一つの視点として学校と地域が効果的な連携をし、地域の教育力を活用するという「ヨコの連携・協力」が重要なのである。

このように、地域で体験活動を円滑に実施するためには、学校は家庭や地域にある企業等との積極的な連携を図り、地域の教育資源を有効に活用することが必要であり、さらに、子どもたちを地域社会全体で育てるという気運を高めるとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組が望まれる。

小学校・中学校・高等学校の連携と家庭・地域との連携



2 家庭・保護者との連携

(1) 家庭・保護者に期待される役割

かつての子どもたちは、保護者の働く姿を日常的に目にし、そこから多くのことを学んでいた。しかし、昨今、社会の変化が目まぐるしく、核家族化や価値観の多様化等で、家庭生活も変わってきている。家事の合理化、外部化により、子どもたちが家事などの仕事を果たす経験も少なくなり、親子の会話も少なくなっている。

家庭は、子どもたちの成長・発達を支える重要な場であり、様々な職業生活の実際や仕事には困難もあるが大きなやりがいもあることを、有形無形のうちに感じとらせることが重要である。同時に保護者が学校の取組を理解し、学校と一体となって子どもたちの成長・発達を支えていくことが今後ますます強く求められる。

家庭教育の在り方、働くことに対する保護者の考え方や態度は、子どもたちの人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼすものである。また、キャリア教育は生活基盤である地域や周囲の大人や社会、産業等とのかかわり無しには考えることはできない。子どもたちは、家庭や地域での人間関係や生活体験を通して、社会性を身に付け、「生き方」の基礎を培っていくのである。

(2) 連携の在り方

キャリア教育について保護者の理解を得ることは非常に重要である。授業参観や保護者会、学校便りなどを通して、学校のキャリア教育の方針や指導内容について理解を深めるよう工夫するとともに、キャリア教育の支援者として共に活動する場を提供したいものである。

また、小学校段階では、遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、勤労生産的な活動や地域での活動等の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくことが重要である。日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、内面的な価値形成に深くかかわる道徳の時間との関連を図るなど、「自己の生き方」を考えることができるようにしていくことが望まれる。

これらの活動をそれぞれの立場で認識し、連携・協力して実施していくことが大切である。



〈実践例と効果〉

- ・学校で取り組んでいるキャリア教育について説明会を開催し、保護者の皆さんに授業を体験してもらった。
- ・学校便り等の広報活動と同時に保護者の方が体験することで、より深い理解が得られた。

【家庭・保護者に期待される役割】

- 家庭は、子どもの成長・発達を支え、自立を促す最も重要な場である。
- 幼少期から生活習慣を定着させたり、子どもに家庭での役割をもたせたりすることにより、望ましい勤労観・職業観を育成する。
- 学校での出来事や将来についてなど、子どもの話をよく聞き自己肯定感をもたせる。

【家庭に向けて発信できること】

- 学校便り、進路便り等による啓発
- 授業公開
- 家庭教育講演会
- 学級懇談会、地域懇談会
- キャリア教育講座、講演会
- 保護者会
- 学校行事公開
- 進路説明会
- 三者面談、進路相談

【家庭・地域が学校と連携して協力できること】

- しつけ、子どもへの接し方
- 働くことを通じての家族の会話
- 卒業生や地域の体験談を聞く会
- 幼児、高齢者、障害のある人々との触れ合い体験
- 家庭における役割分担、家事分担
- 職業人による講演会

3 地域・働く人との連携

(1) 地域・働く人に期待される役割

地域は、本来、子どもたちが同年齢、異年齢の人たちと自由に遊び、活動できる場であると同時に、多様な人間関係を体験することができる場でもある。「子どもは地域の宝」とも言われ、地域で子どもたちを育てていこうという機運が高まりつつあり、また、大人も含めて生涯学習の観点からも、地域でキャリア教育を進めていくことが求められている。家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、子どもたちの家庭での生活、地域での活動の在り方を考え、キャリア発達をはぐくむ連携システムを構築していくことも今後検討される必要があるだろう。

【地域・社会に期待される役割〈例〉】

- 企業から学校へキャリアアドバイザー（従業員）を派遣し、職業観を伝える。
- 職場体験・インターンシップ等を理解し受け入れる。
- 学校との意見交換や情報交換の場を設定し、緊密な関係をもつ。
- 学校訪問や『出前授業』の企画。 など

【子どもたちが地域の中でできること〈例〉】

- 街中探索、社会科見学
- ボランティア活動
- 自治会や公民館の活動
- 職場見学
- 保育体験、福祉体験
- お祭り等地域行事への参加 など

(2) 企業・産業界に期待される役割

また、企業・産業界には、本物に触れさせる体験を通して、子どもたちの知的好奇心を醸成し、学習意欲を高め、将来就きたい仕事へのあこがれを強くさせていくことなどが求められる。子どもたちにとって、企業を訪問したり、職場で体験したりすることは、社会を味わうことのできる1つの教室であり、先生であり、教科書である。このような活動から子どもたちは、自分たちの生活と職業との関係を考え、職業に対する基礎的な知識・理解を得ることになる。企業・産業界には、このような場の提供や子どもたちを社会の一員として大人に育てていくことができる教育力が求められている。そのためには、教育における役割や学校の取組を理解する必要があり、子どもたちに、多様な人とのかかわりを経験させ、コミュニケーション能力をはぐくむと同時に、仕事をしている人と話すことで、仕事に必要な資質や能力などを知る機会をつくるなど、キャリア発達能力をはぐくむ上で社会とのかかわりを大切に連携を図る必要がある。

【企業・産業界との連携でできること〈例〉】

- 工場見学（社会科）
- スーパーマーケット調べ（社会科）
- テレビ局・新聞社見学（社会科）
- 職場見学
- 保育体験、福祉体験
- お店調べ・仕事調べ など

〈実践例と効果〉

薬剤師さんに来ていただきました。
薬の種類や役割についてのお話を聞き、
大切な仕事だと実感しました。



〈実践例と効果〉

キャビンアテンダントに来ていただきました。
あこがれの制服（スカーフ）を身につけ、
夢が広がりました。

（3）連携の効果

家庭・地域と連携をすることで以下の効果があげられる。

児童にとって

- 自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、望ましい勤労観・職業観を身に付けることができる。
- 学校の学習と職業との関係について理解を深めることができる。
- 社会で必要な知識や技能を学ぶことができる。
- 社会的なルールやマナーを体得することができる。
- 地域や事業所に対する理解が深まる。 など

地域にとって

- 地域の人たちの児童理解の促進
- 地域が一体となって生徒を育てようとする機運の醸成
- 地域への理解促進 など

企業にとって

- 児童に対する見方の変化
- 時代を担う人材育成
- 企業の社会的役割の具現化
- 企業における企業価値の向上
- 地域への貢献
- 職場の活性化
- 社員教育の一環 など

4 学校間（異校種間）連携

（1）学校間連携の考え方

キャリア教育において「学校間の円滑な連携」「接続の問題」が取り上げられている。社会の変化に対応するために、新しい内容を含んだ授業が、学校個々の個性に応じて創られようとする時代に、児童生徒にとっての時系列を無視することはできない。一人の人間の成長を考えたとき、幼稚園や保育所から小学校、小学校から中学校への移行には連続性があり、キャリア教育上の連携は、必要不可欠である。



従来から学校間連携の課題として、「生徒個々のもつ情報の移行」や「教え方や接し方のギャップ」等から起こるとされる進学時の不適応など見過ごすことのできない問題を引き起こしている。学校間の連携は、このような課題を解決する意味においても重要なものである。

幼・小・中学校それぞれの特徴を理解した上で、児童生徒の将来を共に見据え、教育の中に具体化しようと、互いに協力しながら連携することが必要である。

キャリア教育は、全教育活動の中で意図的・継続的に推進していくものである。特に小学校は、低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的自立、職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期である。そのため、児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然や文化とかかわる体験活動を身近なところから徐々に広げ、ていねいに設定していくことが大切である。

そのためにも、低学年は幼稚園や保育所と、高学年は中学校と、また中学校は小学校や高等学校と、それぞれの接続と関連を図り、一貫性のある指導を行うことが重要である。福祉体験や交流活動、授業参観などの機会をとらえ、キャリア教育についての理解を図ったり、「中学校ってどんなところ？」などのように、高学年向けのガイダンスで中学校への理解を深めたり、学校見学や出前授業を連携して企画したりするなど、児童や教職員が交流する場を設けることが大切である。

- 異校種の活動について互いに理解を深める。
- 発達の段階に応じた系統性のある指導計画を作成する。
- 個に応じた指導を継続的に行うために、児童のキャリア発達状況を伝える。
- 児童生徒について学校間で連絡会をもち、教育計画等について情報交換する。

（2）学校間連携の活動例

- ① 中学校訪問・幼稚園訪問・学校探検
- ② 中学生との交流（縦割り活動・合同行事・授業内交流）
- ③ 幼稚園児との交流
- ④ 体験授業・クラブ体験
- ⑤ 教員連携（教員の相互乗り入れ授業）
- ⑥ 連絡協議会（学習状況・生活状況・人間関係等）

（3）学校間連携の効果

学校間連携の効果としては、学校間で教育活動についての共通理解を図ることで、12年間（小

学校・中学校・高等学校)を見通したキャリア教育ができる。

子ども自身が進学する学校について情報を収集することで不安が解消され、小学校から中学校、中学校から高等学校へと円滑に移行していくことができる。また、異学年・異年齢の児童生徒と交流をもつことで、人間関係形成能力の育成にもつながる。

〈具体的実践と効果〉

① 中学生の合唱コンクール・合唱祭を小学5・6年生が参観

中学校で行われている合唱コンクールや合唱祭は、小学校に較べてその完成度が高いことが多い。この合唱を小学5・6年生が鑑賞することで、中学校に対する関心が高まり、憧れや目標になっていく。これは、合唱に限らず、すべての教育活動で上級生の成果を下級生が参観することから受ける影響は大きく、進学意欲につながる。



中学生による「読み聞かせ」

② 中学生が小学3年生に「読み聞かせ」

授業において中学2年生が小学3年生に『読み聞かせ』の授業を行った。小学3年生にとって中学2年生は、年齢の離れたお兄さん・お姉さんであり、とても上手にお話をしてもらったという印象であった。上級生にとっても授業の成果を発表する機会となり、有意義なものになった。

③ 異学年の交流する「縦割り活動」

学年の連続性を感じる取組であり、人間関係形成能力の育成に焦点を当てた授業が展開できた。

- ・学校行事の企画
- ・ゲームの企画
- ・調べ学習

を縦割りグループで話し合い、実践した。



縦割り活動

〈学校における効果〉

① 学校間交流をすることで、子どもの発達
の段階を十分に考慮し、見通しをもった指導
の一貫性や系統性が図れる。また、教育課程
等の連携を図ることで、計画的・継続的な学習指導・生徒指導が展開できる。

② 学校間で授業交流を行うことで、教科の学習を通じて指導内容や指導方法を共有することができる。異校種の教員が互いの良さを取り入れることで、相互の指導の幅が広がり、教員の意識改革につながった。